

～キーワード作文や読み合いを通して～

④ まるで だまのめい

③ なーい ないハイ

② なーい べつだん

① はらあ くらやみ

まじで 暗い

ええええ 暗い

ええええ くらやみ

ええええ くらやみ

キーワード



① 早くがはつ明しをまきまくらについてしようかいます。

② 早い方は、なる前にまららの目の目をまき時計をおさる時間になわてぬます。 暗、まくらから音がして目がまきます。

③ まくらについてには、いつまらまくら音が鳴るにがです。 毎日、この音が鳴るのか分らないので、びくりして目がまきます。

④ れがあらはする時間におさるます。 暗おさるのにが手人におさるです。



「どこでも車」
は、いろいろな
場所に行ける
し、運転しなく
ていいので便
利ですね。

題名とはじ
めが読みた
くなります
ね。

那霸市立城西小学校教諭

石川 広美

目次

I	テーマ設定の理由	73
II	研究の目標	74
III	研究仮説	74
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	74
V	研究内容	75
1	書く力について	
(1)	「書くこと」と書く力について	
(2)	書くことの目標	
(3)	書く力を育てるための指導事項	
(4)	書くことの単元系統	
2	論理的に書く力を高める工夫	
(1)	論理的な表現力とは	
(2)	論理的な文章を書く指導における先行研究	
(3)	本研究で取り入れる書く力を高めるための指導の工夫	
①	モデル文とキーワード	
②	キーワードを取り入れた文章組み立て表	
③	型で区切った作文用紙	
3	書く楽しさを感じさせる読み合い	
(1)	書く力から見た良さ	
(2)	児童のつながりから見たよさ	
VI	授業実践	78
1	単元名	
2	教材名	
3	単元目標	
4	評価規準	
5	指導計画	
6	検証1の指導	
7	検証2の指導	
VII	結果と考察	80
1	作業仮説1の検証	(1) 結果 (2) 考察
2	作業仮説2の検証	(1) 結果 (2) 考察
VIII	成果と課題	84
1	成果	
2	課題	
	《主な参考文献》	

書く力を高める作文指導の工夫

～キーワード作文や読み合いを通して～

那覇市立城西小学校教諭 石川 広美

I テーマ設定の理由

めまぐるしく変わる社会の変化に対応し、教育の充実を図るため、文部科学省は学習指導要領の改訂を行い、小学校では平成 23 年度から新学習指導要領が実施された。今回の改訂のねらいの一つに「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること」とある。国語科においても「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力を育むこと」が重視されることとなった。

このように「思考力・判断力・表現力」「論理的」という言葉が使われ、求められるようになった理由は、OECD（経済協力開発機構）の PISA 調査から「日本は思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある」という結果が出たからである。

国語科における表現には「話す」「書く」があるが、書くことに関して、全国学力・学習状況調査（平成 24 年）では「目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く」問題が全問題中、正答率が一番低く（43.7%）無解答率も一番高かった（7.4%）。また、教育課程実施状況調査（平成 15 年）においては、比較的自由に自分の気持ちを表現する設問は正答率が高いのに対し、文章を深く読んで分析的に理解し論理的に記述する設問では正答率が低くなっている。沖縄県学力到達度調査（平成 23 年）からも、5 年生「自分の考えが明確になるように文章を構成すること（正答率 37.4%）」など同様の書くことの課題が明らかになっている。これらから、児童の書く力は低いことがわかる。

また、学級の児童に「書くこと」に関するアンケートをとってみると「作文を書くことは楽しいですか」の質問に 84%が「あまり楽しくない・楽しくない」と答えている。その原因として、書く目的をあまり意識していなかったり、書くための具体的な手立てが弱かったりしていたのではないかと考えた（行事作文や日記など）。そのため、書こうとする気持ちはあるけれども、いざ書こうとするとどう書いていいかわからないという状態になっていたのではないかと考えられる。さらに書くことに時間がかかり、読み合い、感想を伝え合う交流の時間が十分でなかった。そのため、児童が互いに題材や記述の良さに気付いたり、友だちの思いに触れたりできず、書く楽しさがあまり感じられなかったのではないかとと思われる。

これらの課題を解決するために、作文を書く力をつけると共に、作文を書く楽しさを実感させたいと考えた。

そこで本研究では、国語科の作文指導において、書く力をつけるためのワークシートの工夫や書くことの楽しさを感じ、書く力を高める読み合いの工夫について研究したいと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究目標

書く力を高めるために、効果的なワークシートの作成・活用のあり方や読み合いの工夫について研究する。

Ⅲ 研究仮説

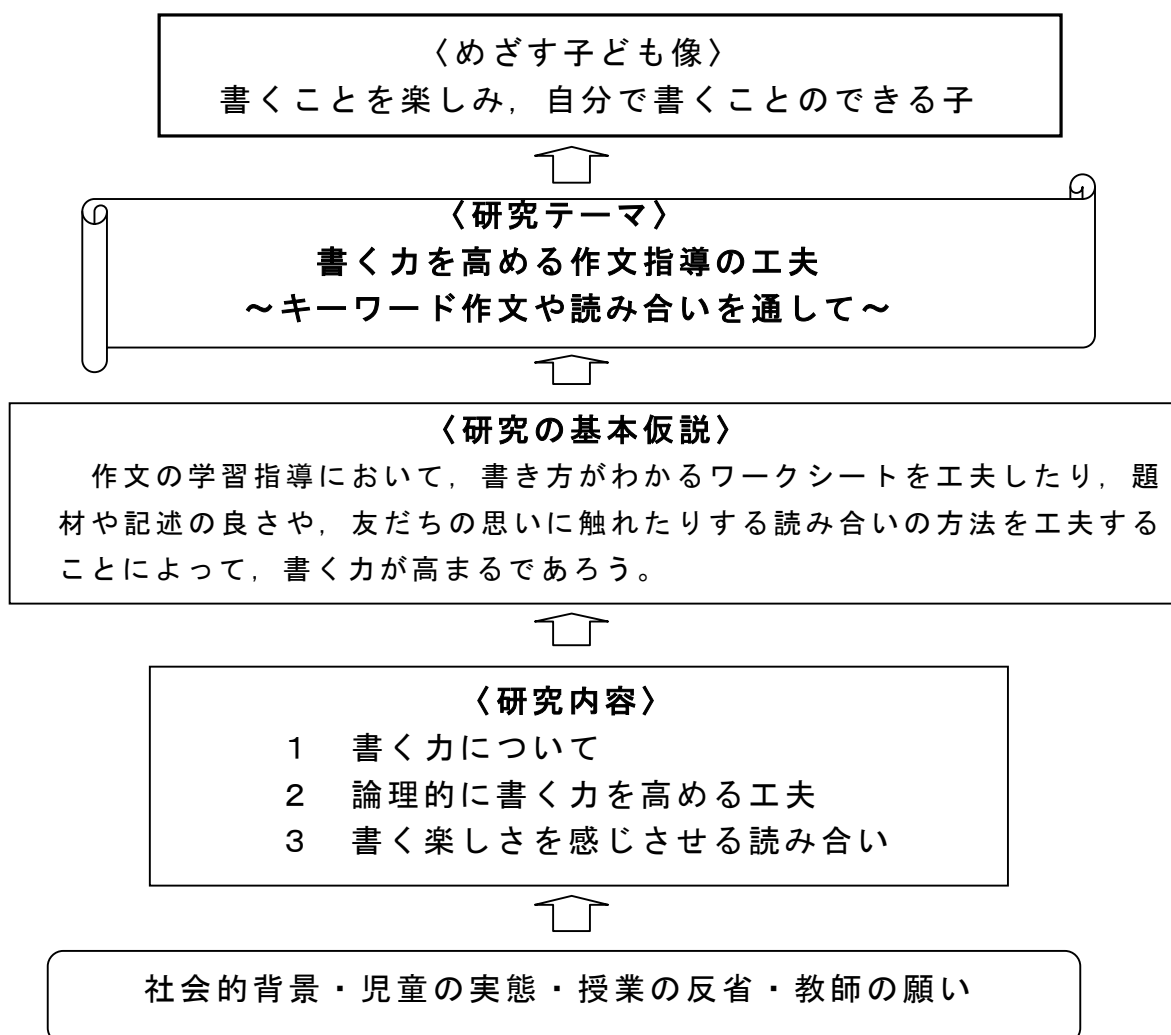
1 基本仮説

作文の学習指導において、書き方がわかるワークシートを工夫したり、題材や記述の良さや、友だちの思いに触れたりする読み合いの方法を工夫したりすることによって、書く力が高まるであろう。

2 作業仮説

- (1) 書く活動において、モデル文や文章構成がわかる組み立て表などを使うことによって、書く方法が分かり、書く力が高まるであろう。
- (2) 読み合いの場において、互いに表現の良さや友だちの思いに触れることによって、よりよい表現について考えたり、読み合う楽しさを感じたりし、書く力が高まるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 書く力について

(1) 「書くこと」と書く力について

大越和孝（『子どもが輝く国語科授業 書くこと編』）によると、書くことには次の3つの意味がある。「①自分自身と自分を取り巻く世界をはっきりとらえ、自分なりに判断し、把握し、分別していくこと②生産的な活動③相手に対して自分が認識していること、思考したこと、想像したことを文字によって伝達すること」である。

書くことは、材料を集めたり、構成や表現を考えたりするなど、自分で考え作り上げていくものなので、難しく時間もかかる。事前アンケートによると、書くことが楽しくないという理由に「考えるのが面倒くさいから」「時間がかかって疲れるから」と答える児童もいる。反面、嬉しいことがあった時や何かを相手に伝えたい時は、書きたくなることがあると答えている。つまり、書くこととは自分を表現することである。また、文字によって相手を理解するなど、人と人をつなぐコミュニケーションの手段にもなる。こう考えると、書くことは難しいことではあるが、生活を送る上、必要不可欠であり、そのために書く力は身につけておきたい力であると考えられる。

本研究では「自分の思いや書きたいことが書けること」や「書くことを支える力としての書く意欲」を「書く力」としてとらえる。書くことを苦手としている児童に、書ける喜び・書く楽しさを味わわせながら、書く力を高めていきたい。

(2) 「書くこと」の目標

学習指導要領によると、書くことの指導においては、「小学校高学年までに目的や意図に応じて適切に表現する能力を育成するとともに、それらが日常生活に生きて働くようにすること」を求めている。指導時間については、年間低学年 100 時間、中学年 85 時間、高学年 55 時間程度であると示している。

本研究では、表 1 のように低学年の目標である「経験したことや想像したことなどについて文や文章を書く能力」を身につけさせたい。

表 1：各学年における書くことの領域の目標（学習指導要領より抜粋）

	第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
書く能力	・ 経験した事や想像した事等 ・ 順序を整理し、簡単な構成を考える。	・ 相手や目的に応じる。 ・ 段落相互の関係などに注意する。	・ 目的や意図に応じる。 ・ 文章全体の構成の効果を考える。
書く態度	進んで書こうとする態度	工夫をしながら書こうとする態度	適切に書こうとする態度

(3) 書く力を育てるための指導事項

書く力は、児童が自ら実際に書く経験を通してしか育たない。学習指導要領では、書く過程を重視し、表 2（次ページ）の指導事項を示している。書く力を育てるためには、この過程をまとめて取り上げたり、一部を重点化・焦点化して取り上げたりする場合が考えられる。本研究では、書き方がわかるようにするために「イ構成に関すること」と、書く良さや楽しさに触れるために「オ交流に関すること」に重点を置いて指導を工夫していきたい。（表 2 太字枠）

表 2：書く力を育てるための指導事項（第 1 学年及び第 2 学年）

課題設定 や取材	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
構成	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
記述	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
推敲	エ 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気づき、正すこと。
交流	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

(4) 書くことの単元系統

学習指導要領では「書くこと」や「読むこと」の言語活動例に説明的な文章の「報告・記録・説明」などの文種が提案され、低学年でも手紙や記録文などいろいろな文種を書く機会が増設された。表 3 は、二年生を中心とした前後の学年の単元系統である。本研究では、説明的な文章を書くことを通して書く力を高めていきたい。

表 3：書くことの単元系統（抜粋）《教育出版》

	説明的な文章	文学的な文章
一年	・ メモを使って紹介しよう（紹介文） ・ 乗り物のことを知らせよう（説明文）	・ お話の続きを書こう（創作物語） ・ 短い言葉で書こう（創作詩） ・ 書きたいことを一つ選んで（生活文）
二年	・ 手紙で伝えよう（手紙） ・ 探検したことを報告しよう（見学報告文） ・ メモをもとに文章を書こう（記録文） ・ 生き物のことを説明しよう（観察記録文）	・ 変身してお話を創ろう（創作物語） ・ 感じたことを詩に書こう（創作詩） ・ 一年間のできごとを振り返って（生活文）
三年	・ いろいろな手紙を書こう（手紙） ・ 調べたことを報告しよう（調査報告文） ・ 生き物の特徴を説明しよう（観察報告文）	・ お話の好きな場面をくわしく書こう（創作物語） ・ 周りに目を向けて詩を書こう（創作詩） ・ 強く心に残っていることを（生活文）

2 論理的に書く力を高める工夫

(1) 論理的な表現力とは

「書くこと」の文の種類は、大きく分けて説明的な文章と文学的な文章がある。今、またはこれから社会に求められる文章表現能力は、簡潔明快に書く説明的な文章力つまり、論理的に書く力であると考ええる。論理とは①考えや議論などを進めていく筋道②思考や論証の組み立てなどの意味がある。また、論理的に書くとは「自分の考えを明確に表現するために、また相手にわかりやすく伝えるために①根拠（理由や具体例）を取り入れる②言葉や表現のつながりを意識する③意図的に文章を組み立てる④相手が納得できるような筋道の通った文章を書くこと」だと言われている。（『子どもと創る国語の授業』全国国語授業研究会編集）

小学校低学年における論理的な表現力の一つは、簡単な文章構成に沿って書くことができることととらえる。

そこで本研究では、説明的な文章、その中でも紹介文を書く指導を通して、文章を組み立てて書く力を高めていきたい。

(2) 論理的な文章を書く指導における先行研究

市毛勝雄氏は「論理的な文章とは、短い明快な文章であり、構成の原則を併せ持っている」とし「型や書き方の指導が必要となる」と述べている（『論理的思考力の育て方』）。その考えを基に埼玉県春日部市立武里南小学校は「論理的に考え表現する力」の育成をめざして、「発信型の読みの授業」を研究してきた（図 1）。その指導

そこで、市毛氏の論理的な文章の指導や武里南小学校の先行事例を参考に、本学級の実態に合わせた指導方法を工夫していきたい。

- 図 1：発信型の読みの指導過程（埼玉県春日部市立武里南小学校）

①モデル文（図2—2）とキーワード

表 4 : 2 年生における文章組み立て表例

モデル文の条件には,

まとめり	配分	字数	書く内容
はじめ(序論)	全体の 1/10	40 字	これから書くことの紹介 あらましを書く。
なか(本論一・二)	全体の 8 /10	160 字	具体的事例を書く。
まとめ(結論)	全体の 1/10	40 字	なかの共通の性質を書く
むすび			筆者の意見・主張を書く
全体の長さ		240 字	

これらのことを踏まえ、モデル文を作成するが、さらに児童に理解しやすいように、児童が実際に書く内容と同じもので、表4の字数にある同量の長さとする。そのモデル文を通して、キーワードを使い、文章構成や組み立ての指導に当たる。

作文を書く前にキーワードを使い、簡単な組み立てを考えさせる。そうすると書きやすくなることや短い言葉で組み立てることで、作文を簡単だととらえさせたい。さらに、紹介文を書く前に下記のような書き方についても指導を行う（次ページ図3）。

モテル文 2 / 名前 ()

大はつ明 見ましまくら

① ほかがはつ明し目さましくまくらについてしょうかいします。

② つかい方は ねる前にまくらの中の目さまし 時計をおきたい時間に合
わせてねます。 朝 まくらから音がして目がさめます。

③ くわつしたごには、いつもちがう音が鳴るころです。 毎日、ど
の音が鳴るのか分からないので、びつくりして目がさめます。

④ これがあればすきな時間におきられます。 朝おきるのがにが手ならに
おすすめてです。

もてん!! キーワード だいいになごね まひよにまどめましよう。

④	③	②	①	き こ	文 字 の 書 き 方	キーワード
きこめ	なごね	なご	はつめ	まひよ	まひよ	
かなでつ	まひよ	まひよ	しょうめい	しょうめい	しょうめい	
	まひよ	まひよ	ごねい	ごねい	ごねい	

キーワード

モテル文

図 2-1 : キーワードを使った文章組み立て表

図 2-2 : モデル文

- | | | | | |
|---|--------|--------|----------------|---------------|
| 1 | はじめ・なか | 1・なか | 2・まとめ | の四つのまとまりで書く。 |
| 2 | はじめには | 文章全体の | 紹介を書く。 | |
| 3 | なか1には | 一つのこと | だけを詳しく書く。 | ※感想や気持ちは書かない。 |
| 4 | なか2には | なかつことは | 違う一つのことを詳しく書く。 | |
| 5 | ※なか1の | 続きは書か | ない。 | ※感想や気持ちは書かない。 |
| 6 | 最後に | 題名を書く。 | | |

図3：紹介文の書き方

③型で区切った作文用紙

はじめ・なか・まとめを意識させるために区切りの線を入れた作文用紙を作成する。書く長さを定め、書く時の注意事項も併せて表記する。

3 書く楽しさを感じさせる読み合い

書く楽しさには、書き方がわかること、書けること、自分の思いを伝えることができること、評価される喜びなどがある。この楽しさを感じさせるために「読み合い」を取り入れていく。学習指導要領では、全学年を通して「相手との交流を書くことのまとめとして位置づける」と指導事項に新設した。低学年としては、書いたものを読み合い、感想を伝え合うことが中心になる。

書く楽しさを経験することによって、表現する喜びを感じ、よりよく表現したいという意欲を持つことにつながっていくと考える。

(1) 書く力から見たよさ

書いている途中での読み合いは、何をどう書いていいかわからない児童にとって書き方がわかり参考になる。完成後の読み合いは、友だちの表現や記述から言語についての感覚が磨かれるであろう。物事に対する視野が広がったり「いろいろな考えがあるんだな」「次はこう書こう」という気づきになったりする。さらに、推敲にも役立つと考える。

(2) 思いを伝え合う楽しさから見た良さ

作文を互いに読み「ここがよかったよ」「その考えはいいね」などと感想を伝え合うことは、書き手側に自分が受け止められている安心感を持たせたり、読み手側には、友だちの考えを知り、親しみが増すなど、友だちへの理解を深めさせたりする。お互いを知り、受け止めることで、受容的な学級の雰囲気になるであろう。認められたり共感されたりすることは、自分に自信がつき、そのことが書く楽しさや書く力の支えになる意欲につながるものと考えられる。

そこで、本研究では、書く力をつけたり、書く楽しさを感じさせたりするために読み合いを取り入れていきたい。

VI 授業実践

- 1 単元名 「じゅんじょをかんがえてせつ明しよう」（東京書籍）
- 2 教材名 「2年5組、はつ明じむしょ」
- 3 単元目標 身近な道具や自分の発明品について、書くことを整理し、順序を考えて書く。

4 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・自分の発明品を紹介することに関心を持ち、発明品を楽しんで考えようとしている。	・身の回りの道具をもとに、発明品を考えている。 ・道具や発明品の使い方や工夫などがよく伝わるように、説明する順序に気をつけて文章を書いている。	・長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。 ・文のつながりを考えながら作文を書いている。

5 指導計画(10 時間)

	学習活動	評価基準(評価方法)
1	・論理的な書き方について知る。 ・問答ゲームや文章の組み立てゲームを行う。	【関】論理的な書き方について興味を持ち、ゲームに参加している。(活動の観察)
2	・モデル文「びっくりな友だち」を読み、紹介文を書くことを知ると共に、キーワードを抜き出し、組み立てを考える。	【書く】キーワードとなる語句を見つけ、構成について読み取っている。(ワークシートの記述)
3	・ペアを作り、お互いにインタビューし合い、書く材料を集める。	【関】友だちとインタビューし合い、書く材料を集めることができる。(ワークシートの記述)
4	・「インタビューメモ」をもとに簡単な組み立てをキーワードで考え、友だちを紹介する文を書く。	【書く】簡単な構成をキーワードをで考え、友だちを紹介する文を書くことができる。(作文用紙の記述)
5	・作文を読み合い、感想を伝え合う。	【書く】自他の作文を読む交流を通して、表現の良さや読む楽しさを感じることができる。(発言、活動の観察、ワークシートの記述)
6	・教材文とモデル文を読み、発明品を考えて紹介することを知ると共に、キーワードを抜き出し、組み立てを考える。	【書く】キーワードとなる語句を見つけ、構成について読み取っている。(ワークシートの記述)
7	・発明品を考え、絵と文で説明した「発明メモ」を書く。	【書く】発明品を考え、使い方や工夫がわかるように紹介文を書いている。(ワークシートの記述)
8 本時	・「発明メモ」をもとに簡単な組み立てをキーワードで考え、発明品の良さや工夫が伝わるような「紹介文」を書く。	【書く】簡単な構成をキーワードで考え、発明品を紹介する文を書くことができる。(ワークシート、作文用紙の記述)
9	・「紹介文」を友だちと読み合い、発明品の内容や紹介の仕方について、良さや感想を交流する。	【書く】自他の作文を読む交流を通して、表現の良さや読む楽しさを感じている。(活動の観察、ワークシートの記述)
10	・学習の振り返りをする。	【関】作文の学習について大事なことやわかったことをまとめたり、感想を書いたりしながらまとめができる。(発言・活動の観察、ワークシートの記述)

6 検証1の指導(8/10 時間)

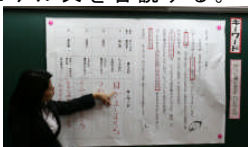
(1) 目標

自分が考えた発明品を友達に知らせるために、はじめ・中・まとめの簡単な組み立てを考えて紹介文を書くことができる。

(2) 授業仮説①

紹介文を書く場面において、キーワードを取り入れた組み立て表や、字数の区切りや書くポイントを入れた作文用紙を使うことによって、簡単な組み立てを考えて書くことができるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価と支援
導入 5分	1 今日の学習のめあてを知る。 ・めあてをワークシートに書く	・これまでの学習の流れを振り返る。 ・2, 3人の児童に発明品を発表せ、書く意欲を高める。 ・今日のめあてを考えさせる。・めあてを確認する。	
展 開	2 モデル文を音読する。 	・前時のモデル文を使い、キーワードの意味や、モデル文のキーワードを確認する。 ・「はじめ・なか・まとめ」の組み立てや、その中を書くことについても触れる。	【書く】について {児童の観察、ワークシートの記述} (A) 発明品について

展 開 30 分	3 キーワードを使った簡単な組み立てを考える。 (1) なかー、なか二に書きたいことを選ぶ。 (2) 順番を考え、知らせたい内容をキーワードで書く。 (3) 組み立て表に沿って、作文用紙に書く。 4 お互いの書いた「組み立て表」や「作文」を読み合う。  5 読み合ったことを参考に、自分の組み立て表や作文を見直す。	・ 前時に書いた「発明メモ」を見ながら、どんなことを知らせたいか決める。 ・ 短い言葉・キーワードで組み立てを考えさせる。 ・ 書き方がわかるために、字数の区切りや書くポイントを入れた作文用紙を使わせる。 ・ お互いに交換させ、質問したり、感想を伝えたり、アドバイスを送ったりさせる。 ・ ペアで読み合うことで、書き方の確認をしたり、参考にさせたりする。 ・ 自分の作文をはじめから読み返させる。(簡単な推敲)  	て、伝えたいことを全関係性を考えながら、キーワードで書くことができる。(Cへの手立て) 発明品のメモを見せ、知らせたいことは何か考えさせる。
まとめ 10	6 今日の学習を振り返る。 7 次時の学習の見通しを持つ。	・ めあてに戻って、学習を振り返らせる。 ・ 児童の感想を発表させる。 ・ 組み立てを意識して書き進めてきたことを褒め、完成への意欲を持たせるようにする。	

7 検証2の指導【9／10時間】

(1) 目標

自他の作文を読む交流を通して、表現の良さや読む楽しさを感じることができる。

(2) 授業仮説②

読み合いの場において、多くの作文を読み、表現の良さや発明品の良さについて気づいたり、感想を伝え合ったりすることができれば、よりよい表現について考えたり、書く楽しさを感じたりし、書く力が高まるであろう。

(3) 主な学習

学習活動	指導上の留意点
○学習のめあてを知る。	・読み合う目的（読み合うことで、書き方の良さに触れたり、考えの良さに触れたりする）を知らせる。
友だちの紹介文を読み、よさを見つけよう。○文章の書き方の良さ ○発明品の良さ	
○グループ内で読み合う。 ・付箋紙にコメントを書く。 ・付箋紙を相手にプレゼントする。 ・友だちからのコメントを読む。	・たくさんの友だちの紹介文が読めるように人数を6～7人程度とする。 ・読み合う時間を確保する。   
○学習の振り返りをする。 ・学習の感想を書く。 ・友だちの感想を聞く。 ・先生の話聞く。	・めあてに戻り、考えさせる。感想を論理的な書き方で書かせる。「わたしは、紹介文を読んで、どう思ったか。その理由は～」 ・友だちの感想を聞き合う。(読み合いの良さの共有) ・書く学習の大切さの話をする。

VII 結果と考察

1 作業仮説1の検証

書く活動において、モデル文や文章構成がわかるキーワードを使った組み立て表などを使うことによって、書く方法が分かり、書く力が高まるであろう。

(1) 結果

書き方の参考になるように、モデル文「大発明日覚まし枕」を作成し、第6時の指導で構成についてキーワードでとらえさせた。その後、キーワードで組み立てを考えさせ、書く活動に入った。考える際には、ワークシートをめくり、前時のモデ

その他にも「メモとキーワードを書いたら、すぐに作文が書けることがわかりました」や「うまく組み立てもできた」などの声もあった。

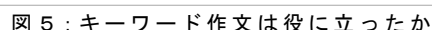
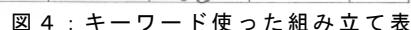
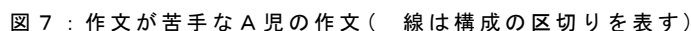


図 6：児童の感想（一部省略） 線は簡単 線は書きやすい 線は楽しいを表す

ところで、下記図7は書くことが苦手なA児の事前・事後の作文の比較である。A児は事前作文「好きな遊びを紹介しよう」では「書く内容が思い浮かばない」と書くことができなかった。材料を教師と一緒に探し、ドッジボールについて書き上げたが、文量が少なく、またなぜ楽しいかという理由はなく、遊び方の説明になっていた(図7左)。事後の作文では、前時でメモを書いていたこともあり、簡単な組み立てを考え、一人で書くことができた。文量も増え、構成も四段落(はじめ・なか一・なか二・まとめ)と整っている。

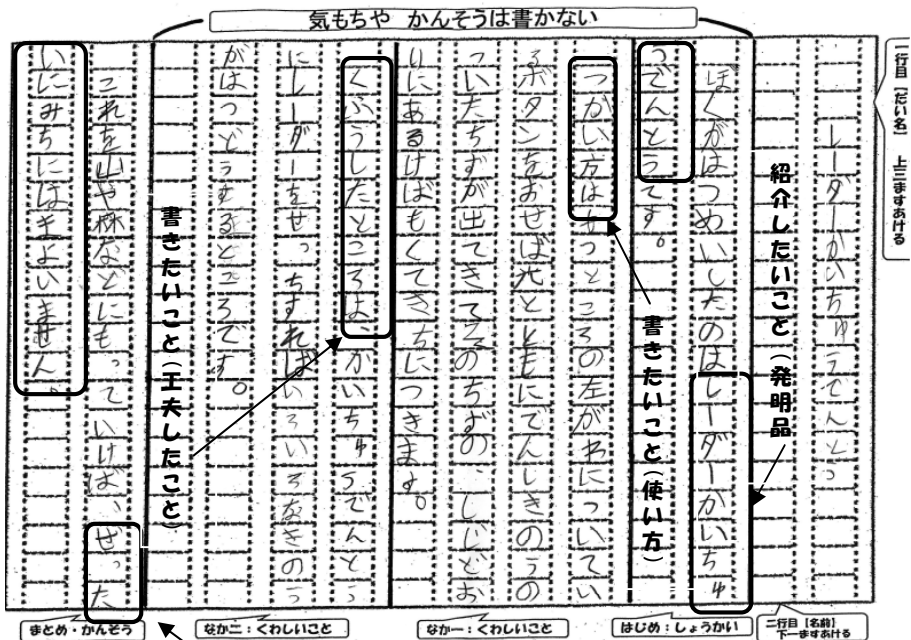


使い方

發明品

次は、作文が得意なB児の作文である(図8)。事前の作文では、好きな遊びやその理由が書かれてはいたが、一続きで書いており、構成の意識は見られなかった。事後の作文では「発明品の紹介・使い方・工夫したところ・おすすめの言葉」と四つの構成で書くことができた。(次ページ図8)

また、A児、B児のようにほとんどの児童が四つの段落で書くことができていた。



まとめ(おすすめの言葉)

図8: 作文が好きなB児の作文

また、図9を見ると、「書く順番を考えることができるか」の質問では「できる」が56%から92%へと高まった。さらに図10の「書きたいことが書けたか」の質問では、「書ける」が27%から68%へと増え「あまり書けなかった」が19%から8%へと減った。その上、「全然書けなかった」と答えている児童が事後では0となった。

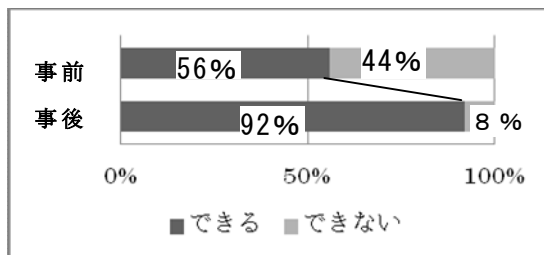


図9: 書く順番を考えることができるか

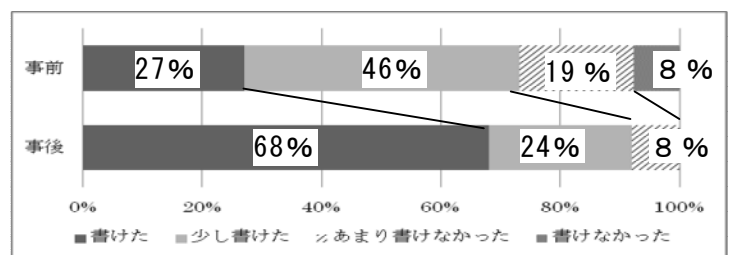


図10: 書きたいことが書けたか

(2) 考察

書くことに苦手意識を持っている児童が取り組みやすいように「友だちにインタビューをしよう」や「発明品を考えよう」など内容を工夫した。インタビューや想像をすることで、書く材料が集まりやすかったことや「他の友だちに紹介しよう」と書く目的がはっきりしていたため、書きやすかったと考える。

また、モデル文は構成についてとらえやすく、また、組み立てを考える際にも参考になったと考える。さらに、組み立てを考えて書き始めたことは、書く方法がわかっただけではなく「何を書いていいかわからない」というとまどいを取り除き、9割以上の児童の「書きたいことが書けた・少し書けた」の姿に結びついたと考える。また、キーワードを使った組み立てや作文が「役に立った」「書きやすかった」との多くの声は、「作文は簡単」という思いを感じさせられたのではないかと考える。

これらの結果より、仮説1が有効であったと考えられる。

2 作業仮説2の検証

読み合いの場において、互いに表現の良さや友だちの思いに触れさせることによって、よりよい表現について考えたり、楽しさを感じたりし、書く力が高まるであろう。

(1) 結果

下記の図11のグラフは、読み合う交流についてのアンケートの結果である。「とても・少し」を合わせ、88%の児童が読み合いは楽しかったと答えている。

①よりよい表現について考えることができたか

作文を書いている途中に、書き方の参考にするため、読み合う活動を取り入れた。すると「こうやって書いていたり、こうやって工夫していることがわかりました」「作文を書く時に見本にしたいです」などの感想があった。

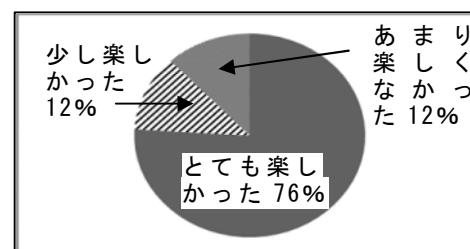


図11: 読み合いは楽しかったか

また、完成した後の読み合いでは図12のよう

な感想が見られた。感想ア～エの下線から、面白さやすごさを感じたり、共感したりするなど発明品の良さに気づくことができた。さらに、オ～キ

ア Sさんの「らくちんジャンパー」は、寒い時と暑い時に便利ですね。
 イ おもしろいです。本当に「ゲーム」みたいです。
 ウ 大変な事になっちゃったけど、自分も優勝できるならいいと思います。
 エ ボールからオリンピック選手が出てきて、技が一日で覚えられちゃってすごいです。
 オ 題名とはじめが読みたくなりますね。真似してみたいです。
 カ Aさんの発明品のことが詳しく書かれていてとてもわかりやすいです。
 キ はじめ・なか・まとめが上手に書けていますね。真似してみたいです。

図12: 書く力から見た感想 下線は発明品の良さ 点線表現の良さを表す

の下線から、題名や構成など表現の良さに気づくことができた。

②読み合う楽しさを感じることもできたか

作文の完成後、読み合いをすることを児童に告げると「エー」という声があがったが、読み合いを始めると静かに真剣に友だちの作文を読む姿が見られた。また、読み合いの後には「まだみんな読んでいない」「もっと読みたい」などの声も聞かれた。下記の表5は、児童の感想である。その他、「友だちの作文を読むことは大事な」「作文がなかったら友だちのことがわからないからあったほうがいい」との声もあった。

表5: 思いを伝え合う楽しさから見た読み合いの良さ

読む楽しさ	読んでもらう楽しさ
◆いろんな作文が読めて楽しかった。 ◆読んだら楽しい気分になった。 ◆ペアーの人の作文を読み合って、これもいいなあと思いました。 ◆自分の考えと違ってすごくいい作文でした。 ◆みんな違う理由で、おもしろい文章の人もいた。	◆作文を書く勉強はとっても楽しかったです。なぜ楽しかったかというと自分が発明した物をみんなに知らせることができたからです。 ◆作文で知らせたいことを詳しく書いたら言いたいことが伝わるのすごいいと思いました。 ◆みんなに「すごいな」と言われてやりたい気持ちになった。
 グループでの読み合い	 友だちの感想を読む姿

③書く力の支えになる意欲の変化

下の図13のアンケートによると「作文を書くことは楽しい・少し楽しい」が事前の16%から84%に増えた。その理由として「いつもより簡単だったから」「読み合いをしたから」と答えている。

さらに、作文に対する自由記述の比較では、事前は記述なしが最も多く無関心さが感じられた。内容を見ても「書きたくない」「苦手」という否定的な内容が多かったが、事後では「作文の勉強が楽しくなった」「もっとやりたい」など肯定的にとらえる内容が多く見られた。また「作文はいいんだな」「あった方がいいな」「書くことや伝える事って大事な」という感想も見られた。

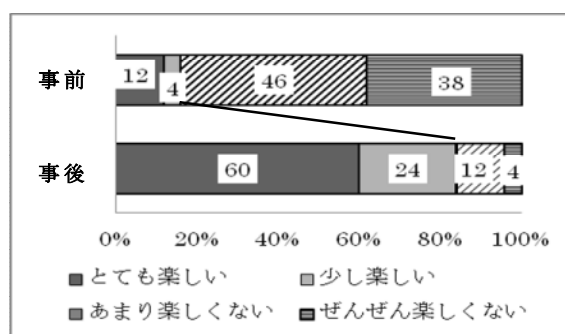


図 13：作文を書くことは楽しいか

(2) 考察

読み合いでは、友だちの作文に触れることができた。その中で「次、見本にしたいです」や「詳しく書かれていてとてもわかりやすいです」などの感想から、よりよい表現について考えたり、次へ生かそうとしたり、また自分の作文の振り返りにもなったと考える。

また、多くの児童が「読み合いは楽しかった」と答えていることや児童の感想から、読む楽しさや読んでもらう楽しさを感じたととらえる（図 11 や表 5）。さらには「みんなに『すごいな』と言われて、やりたい気持ちになった」との感想から、友だちとの関わりが、作文を書きたいという意欲へとつながったことが感じられる。

また、図 13 の書くことが楽しくなった理由については、検証 1 の指導で「書きたいことが書けた」ことがあると考える。書けたことが自信や楽しさにつながり、読み合いの深まりになったととらえる。

これらのことから、読み合いの場において友だちの作品に触れ、よりよい表現について考えたり、読み合う楽しさを感じたりでき、書く力や書く力の支えになる意欲が高まったため、仮説 2 は有効であったと考える。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) モデル文やキーワードを使った組み立て表などを工夫することによって、説明的な文章の書く方法がわかり、簡単な構成を考えて書くという 2 年生なりの論理的に書く力が高まった。
- (2) 読み合いを取り入れることによって、表現のよさや友だちの思いなどに気づき、読み合う楽しさや書く楽しさを感じることで、書く力の支えになる意欲が高まった。

2 課題

- (1) 文の組み立てを考え、論理的に書く力の定着を図る指導の工夫。
- (2) 文学的な文章を書くためのキーワード作文の応用。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	東洋館出版社	2008
『論理的思考力の育て方』	市毛勝雄	明治図書	2009
『論理的思考力を育てる「発信型の読み」の授業』	武里南小学校	明治図書	2009
『楽しい読み合い・交流の授業』	今井成司	日本標準	2010
『新しい国語』	小森茂ほか	東京書籍	2010
『子どもが輝く国語科授業 書くこと編』	大越和孝	東洋館出版社	200